

2019年度
青少年のインターネット・リテラシー指標等
に係る調査結果

2020年7月

総務省総合通信基盤局
電気通信事業部
消費者行政第一課

1 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査結果 －ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students)－

- スマートフォンが急速に普及し、インターネットがますます青少年にとって身近になる中、青少年がインターネットを安全に安心して活用するためには、インターネット・リテラシーの向上が必要。
- 総務省では、利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）の提言（2011年10月）を受け、青少年のインターネット・リテラシー向上のための前提として、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状等を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを指標として開発。2012年度より毎年、高等学校1年生を対象に、青少年のインターネット・リテラシーを測るテストをインターネット等の利用状況に関するアンケートとあわせて実施（以下、本資料において「高校生」とは高等学校1年生を指すものとする。）。
- 2019年度は、協力を得られた57の高等学校において、2020年1月から2月にかけてテスト及びアンケートを実施。その結果を集計・分析し、「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標（ILAS：アイラス）等に係る調査結果」として取りまとめた。

■「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」（2009年4月1日施行）

【基本理念】

- ① 青少年の適切なインターネット活用能力の習得（インターネット利用に係るリテラシー向上）、②青少年の有害情報の閲覧機会の最小化（フィルタリングの機能向上・普及、関係事業者による取組み）、③民間による自主的・主体的取組、国等による尊重・支援

■利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）提言（2011年10月）

2. 各関係者に求められる役割等 （中略）

行政には、（特にインターネット上の危険への対処に係る）インターネットリテラシーに関する指標を、国際的に比較可能な形で整備し、定期的に公表していくことが求められている。

■青少年のインターネット・リテラシー指標に関する有職者検討会 （2011年9月～2012年3月）

教育工学や法学等に知見を有する有識者の方々からのご知見を踏まえ、特にインターネット上のリスク分類と、これに対応した危険・脅威への対応能力の整理、この能力を明らかにするテストの開発・分析・整理を実施。

（顧問）堀部政男 一橋大学名誉教授、渡部洋 東京大学名誉教授 （座長）赤堀侃司（白鷗大学教育学部長・教授）、（座長代理）新井健一（ベネッセ教育研究開発センター長）

2 ILASの実施概要等

○ テスト及びアンケート調査の実施概要

2020年1月から2月にかけて、全国57の公立・私立の高等学校において、7,252名の1年生を対象にIDを割り付けた上で無記名形式でテストを実施。併せて、利用している機器やトラブル経験の有無等についてアンケートを行い、クロス集計を実施。

所在地区分		設立区分		協力人数		平均点	
特別区等	5校	国立・国立高専	1校	男性	3570人	男性	32.4点
中核市	10校	公立	50校	女性	3672人	女性	34.9点
その他	42校	私立	6校	性別無回答	10人		
計 57校				合計 7252人		全体 33.7点 (49点満点)	

100%換算で68.7%

(次ページ以降、100%換算で示す)

○ 青少年に必要なリスク対応能力の分類

「青少年のインターネット・リテラシー指標に関する有職者検討会」(2011年9月～2012年3月、座長：赤堀侃司白鷗大学教授)において、OECDの「インターネット上の青少年保護に関するレポート」(2011年5月)におけるリスク分類をベースに、インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力(リスク対応能力)に関し、以下の項目に整理。

【青少年に必要なリスク対処能力】

1. インターネット上の違法コンテンツ、有害コンテンツに適切に対処できる能力【違法有害情報リスクへの対処能力】
 - a. 違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。【違法情報リスク】
 - b. 有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。【有害情報リスク】
2. インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力【不適正利用リスクへの対処能力】
 - a. 情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。【不適切接触リスク】
 - b. 電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。【不適正取引リスク】
 - c. 利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。【不適切利用リスク】
3. プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力【プライバシー・セキュリティリスクへの対処能力】
 - a. プライバシー保護を図り利用できる。【プライバシーリスク】
 - b. 適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。【セキュリティリスク】

3-1 2019年度ILASの結果（経年比較）

- 全体の正答率（68.7%）は、過去4年間の平均（68.8%）とほぼ同等である。
- 項目別に4年前と比較すると、「3b. セキュリティリスク」の正答率が相対的に上昇している一方で、「2c. 不適切利用リスク」「1b. 有害情報リスク」の正答率が相対的に下降している。

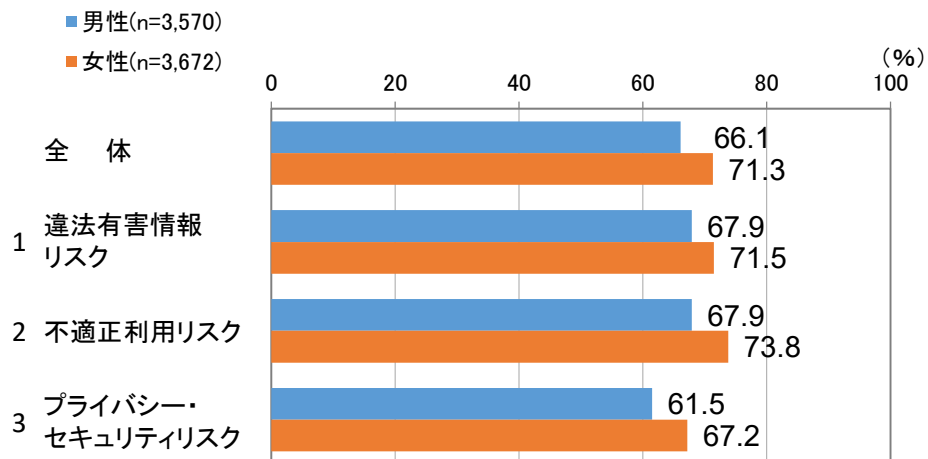
3b. セキュリティリスク（ID・パスワード、ウイルス対策等）	: 65.3%（2015年度）→66.8%（2019年度）	となっており、1.5%上昇。
2c. 不適切利用リスク（過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等）	: 82.4%（2015年度）→78.9%（2019年度）	となっており、3.5%下降。
1b. 有害情報リスク（不適切投稿、炎上、閲覧制限等）	: 68.2%（2015年度）→66.0%（2019年度）	となっており、2.2%下降。

リスク分類	具体例	2015年度 (n=13,647)	2016年度 (n=14,812)	2017年度 (n=17,223)	2018年度 (n=12,626)	(参考) 過去4年平均	2019年度 (n=7,252)
全体		69.7%	67.2%	68.8%	69.6%	68.8%	68.7%
1 違法有害情報リスク		70.5%	68.9%	70.3%	70.5%	70.0%	69.7%
1a. 違法情報リスク	著作権、肖像権、 出会い系サイト等	72.9%	71.8%	73.8%	73.6%	73.0%	73.4%
1b. 有害情報リスク	不適切投稿、炎上、 閲覧制限等	68.2%	65.9%	66.8%	67.4%	67.0%	66.0%
2 不適正利用リスク		72.6%	69.3%	70.9%	71.6%	71.0%	70.9%
2a. 不適切接触リスク	匿名SNS、迷惑メール、 SNSいじめ等	78.3%	75.8%	77.0%	77.1%	77.0%	76.6%
2b. 不適正取引リスク	フィッシング、 ネット上の売買等	57.1%	54.6%	56.4%	57.5%	56.3%	57.3%
2c. 不適切利用リスク	過大消費、依存、 歩きスマホ、マナー等	82.4%	77.5%	79.4%	80.2%	79.8%	78.9%
3 プライバシー・セキュリティリスク		64.6%	62.6%	63.9%	65.6%	64.1%	64.4%
3a. プライバシーリスク	プライバシー、 個人情報の流出等	63.9%	60.8%	62.3%	63.9%	62.6%	62.0%
3b. セキュリティリスク	ID・パスワード、 ウイルス対策等	65.3%	64.3%	65.6%	67.4%	65.6%	66.8%

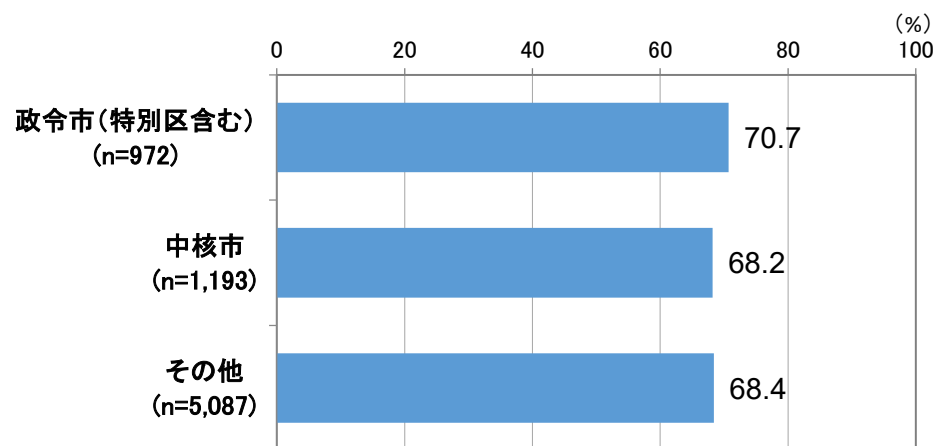
3-2 2019年度ILASの結果（男女別・学校所在地別比較）

- ほとんどの設問で男子より女子の正答率が高い。この傾向は例年と同様である。（図1）
- 学校の所在地別では、政令市等における正答率が高い。（図2）

【図1】男女別の正答率（大分類）



【図2】学校所在地別の正答率



	2017年度		2018年度		2019年度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全体	66.5%	71.1%	67.0%	72.1%	66.1%	71.3%
1 違法有害情報リスク	68.9%	71.8%	68.8%	72.2%	67.9%	71.5%
2 不適正利用リスク	68.2%	73.8%	68.6%	74.5%	67.9%	73.8%
3 プライバシー・セキュリティリスク	61.7%	66.3%	63.0%	68.3%	61.5%	67.2%

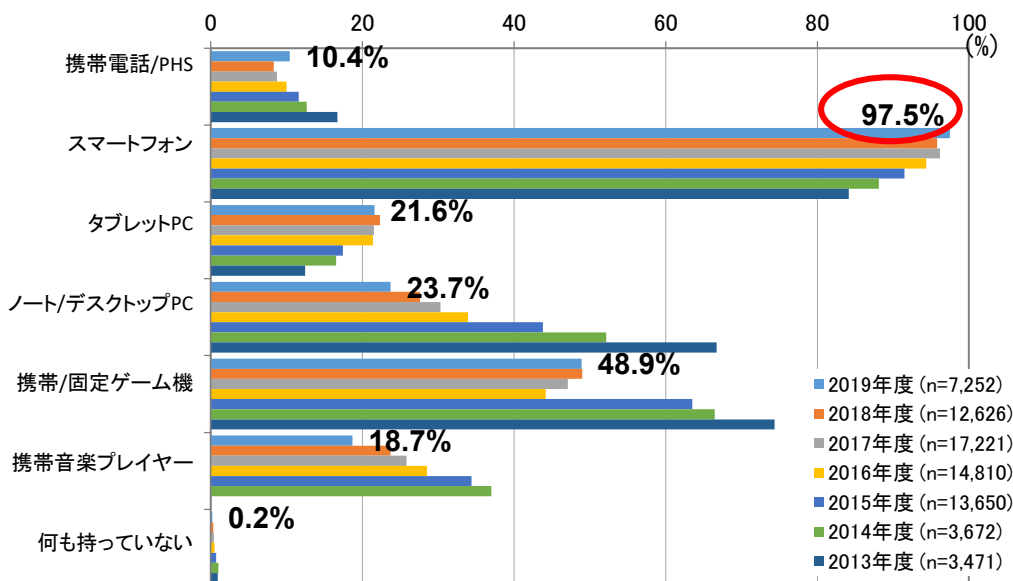
	2017年度	2018年度	2019年度
政令市(特別区含む)	68.8%	73.5%	70.7%
中核市	70.1%	69.3%	68.2%
その他	68.4%	68.8%	68.4%

4 高校生の利用機器の現状

- 高校生の97.5%がインターネット接続機器としてスマートフォンを保有している。（図1）
- 保有するインターネット接続機器のうち最もよく利用する機器として、高校生の92.5%がスマートフォンをあげている。（図2）

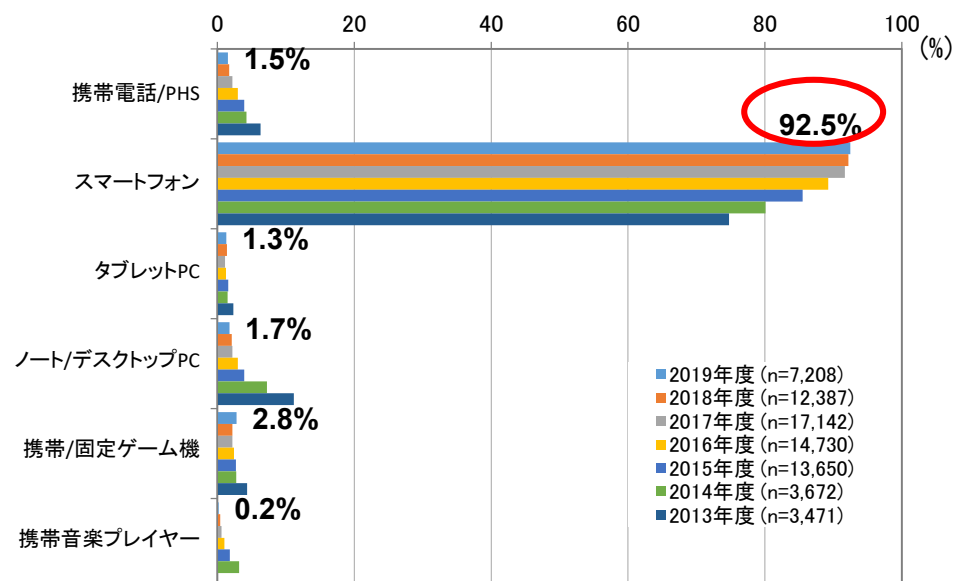
【図1】保有するインターネット接続機器（複数回答）

あなたが保有しているインターネットに接続する機器を教えてください。



【図2】保有するインターネット接続機器のうち、最もよく利用する機器（択一回答）

左の問でお答えいただいた機器の中で最もよく利用する機器はどれですか。



（出典）青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校1年生）の結果を基に作成。

5-1 高校生のインターネット利用の現状（平日）とILASの結果（クロス集計）

○ スマートフォンの平日1日当たりの平均利用時間は、2時間～3時間の割合が最も多く（25.1%）、他の機器に比べ利用時間が長い。また、約8割（79.2%）が2時間以上利用しており、昨年度（2018年度）の約7割（69.2%）と比べ、長時間利用の割合が増加している。（図1）

○ スマートフォンの利用時間別の正答率では平均利用時間1時間未満が最も高く、利用時間が長いほど概ね正答率が低下する傾向にある。（図2）

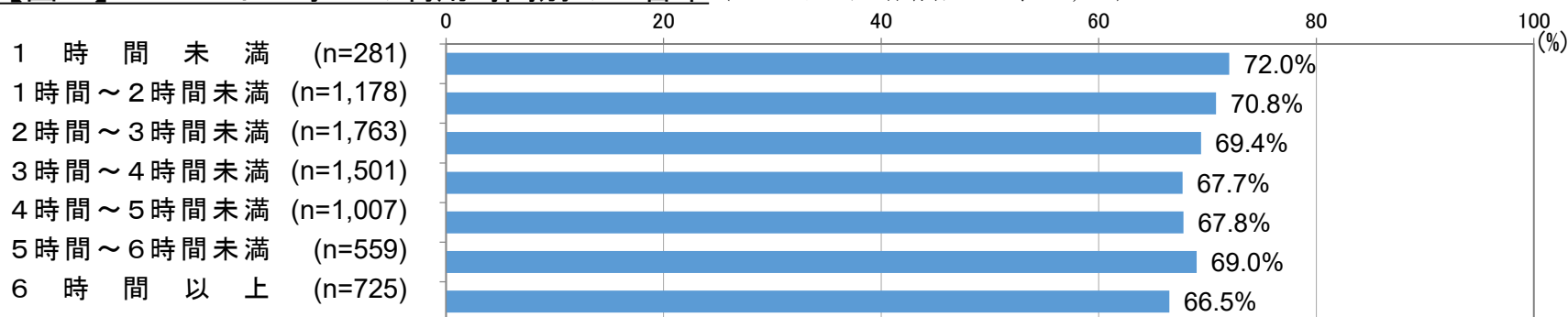
あなたが平日にインターネットを利用する際に使う機器について、それぞれの1日の平均使用時間を教えてください。

【図1】平日1日当たりの平均利用時間

[各機器保有者における割合：%] ※（ ）内の数字は昨年度数値

	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6時間以上
スマートフォン (n=7014)	4.0 (7.1)	16.8 (23.7)	25.1 (28.5)	21.4 (18.6)	14.4 (9.9)	8.0 (5.3)	10.3 (6.9)
タブレットPC (n=1539)	61.7	19.0	9.3	4.7	2.4	1.2	1.6
ノートPC+デスクトップPC (n=1879)	73.7	12.6	6.3	3.0	1.5	0.9	2.0
携帯ゲーム機+固定ゲーム機 (n=5048)	61.7	18.3	9.3	5.3	2.1	1.3	1.9
携帯音楽プレイヤー (n=1318)	64.1	22.4	6.6	4.0	1.0	0.4	1.5

【図2】スマートフォンの利用時間別の正答率（スマートフォン保有者ベース、n=7,014）



（出典）青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校1年生）の結果を基に作成。

5-2 高校生のインターネット利用の現状（休日）とILASの結果（クロス集計）

- スマートフォンの休日1日当たりの平均利用時間は、6時間以上の利用が最も多く（29.7%）、他の機器に比べ利用時間が長い。（図1）

※昨年度（2018年度）は、「3～4時間」の利用が最も多く（21.2%）、次いで「6時間以上」（19.2%）であった。

- スマートフォンの利用時間別の正答率では平均利用時間2時間～3時間が最も高く、休日の平均利用時間と正答率に相関関係は見られない。（図2）

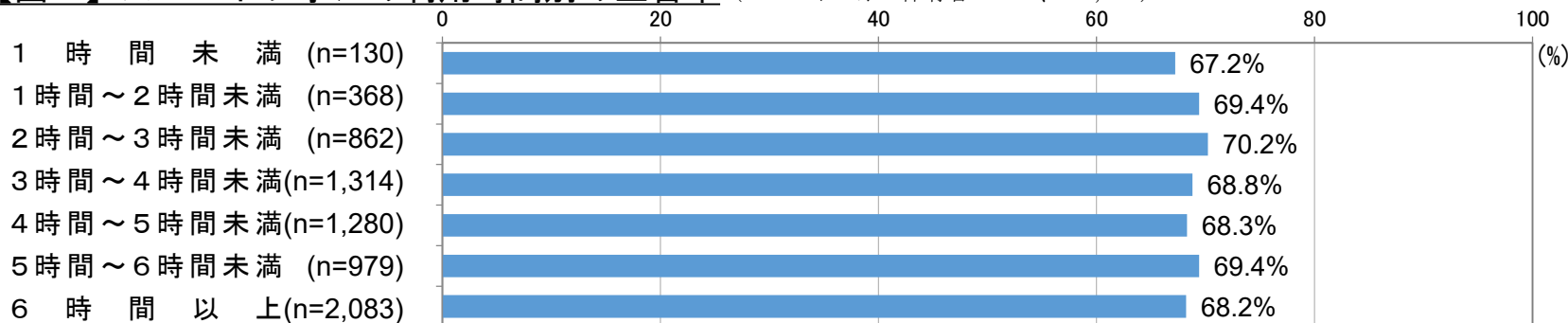
あなたが休日にインターネットを利用する際に使う機器について、それぞれの1日の平均使用時間を教えてください。

【図1】休日1日当たりの平均利用時間

[各機器保有者における割合：%] ※（ ）内の数字は昨年度数値

	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6時間以上
スマートフォン (n=7016)	1.9 (3.3)	5.2 (9.9)	12.3 (20.7)	18.7 (21.2)	18.2 (16.1)	14.0 (9.6)	29.7 (19.2)
タブレットPC (n=1534)	53.7	19.0	10.8	6.0	3.9	2.2	4.4
ノートPC+デスクトップPC (n=1874)	62.5	16.6	7.6	3.3	2.7	2.0	5.3
携帯ゲーム機+固定ゲーム機 (n=5050)	53.1	16.7	11.4	6.7	4.7	2.0	5.5
携帯音楽プレイヤー (n=1309)	61.7	20.8	8.3	4.0	2.1	1.1	2.0

【図2】スマートフォンの利用時間別の正答率（スマートフォン保有者ベース、n=7,016）



（出典）青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校1年生）の結果を基に作成。

6 フィルタリングに対する認知と利用状況

- 高校生の74.7%※¹（前年度69.2%※²）が一定程度フィルタリングを認知している。（図1）

※¹ フィルタリングを「よく知っている」（28.8%）又は「多少知っている」（45.9%）と回答した者の合計。

※² フィルタリングを「よく知っている」（23.1%）又は「多少知っている」（46.1%）と回答した者の合計。

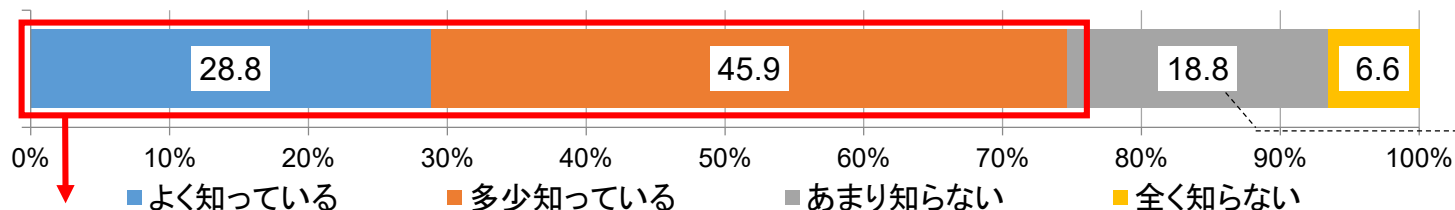
- フィルタリングを一定程度認知している高校生の45.2%がフィルタリングを利用。（図2）

一方、フィルタリングをあまり知らない高校生のフィルタリング利用率は20.1%。

▶ **〔考察〕** フィルタリングの認知度は前年度の69.2%から74.7%と約5.5%増。この背景として、2019年8月に総務省の「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関するタスクフォース」で取りまとめられた「青少年のフィルタリング利用促進のための課題及び対策」が挙げられる。これを踏まえた関係者の周知啓発を含む取組がフィルタリングの認知度向上に寄与したことが推察される。フィルタリングの更なる利用促進に向けては、引き続きフィルタリングサービスの認知を高めていくことが重要であると考えられる。

【図1】 フィルタリングの認知状況（スマートフォン保有者ベース、n=7,248）

あなたはフィルタリングまたは機能制限を知っていますか。

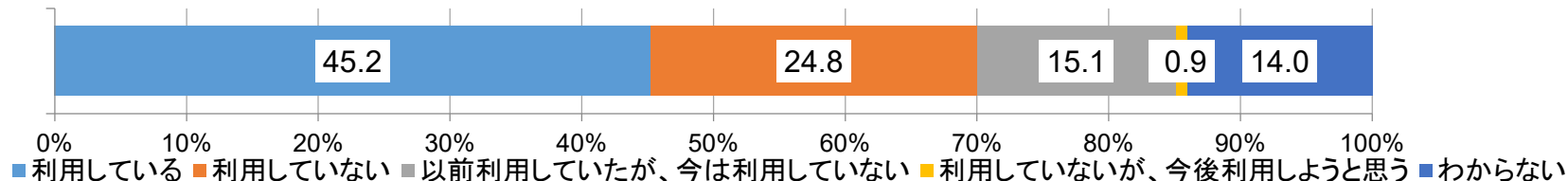


（参考）
フィルタリングを「あまり知らない」と回答した者におけるフィルタリング利用率：20.1%

【図2】 フィルタリングを認知※している高校生のフィルタリング利用状況（スマートフォン保有者ベース、n=5,287）

※この図では、フィルタリングを「よく知っている」又は「多少知っている」と回答した者におけるフィルタリング利用状況を集計している。

あなたはフィルタリングまたは機能制限を利用していますか。



（出典）青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校1年生）の結果を基に作成。

7-1 フィルタリングに対するイメージと利用状況

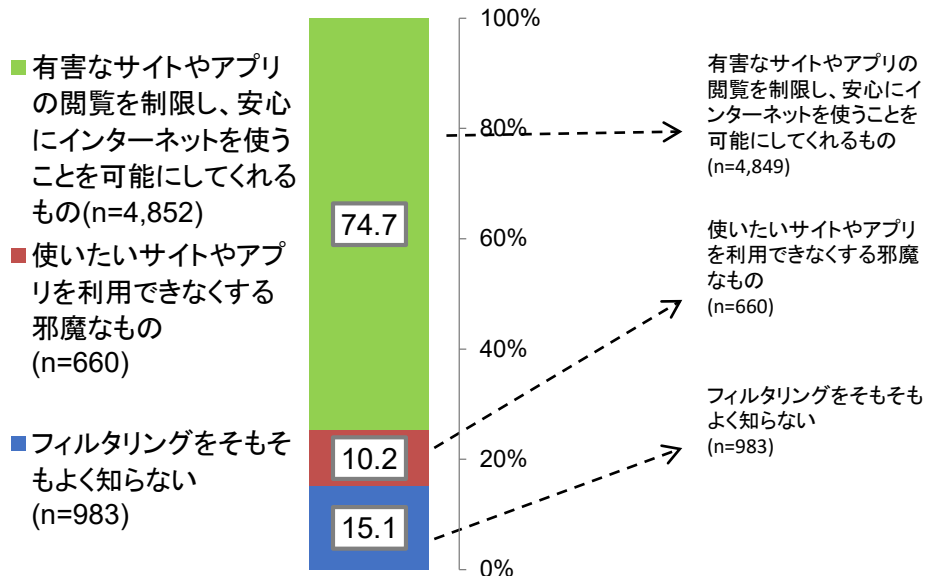
○ 高校生の74.7%がフィルタリングを「有害なサイトやアプリの閲覧を制限し、安心してインターネットを使うことを可能にしてくれるもの」と肯定的に捉えている一方、高校生の10.2%がフィルタリングを「使いたいサイトやアプリを利用できなくする邪魔なもの」と否定的に捉えている。（図1）

○ フィルタリングを肯定的に捉えている高校生の45.6%、否定的に捉えている高校生の33.6%がフィルタリングを利用している。一方で、フィルタリングに肯定的なイメージも否定的なイメージも持っていない高校生のフィルタリング利用率は18.1%である。（図2）

▶ **〔考察〕** フィルタリングの利用促進に向けては、引き続きフィルタリングの有用性や機能（サイト・アプリのカスタマイズ※機能等を含む。）について、正確な情報を周知することが重要であると考えられる。
 ※ 個別のサイトやアプリについて、閲覧・利用の可否を設定すること。

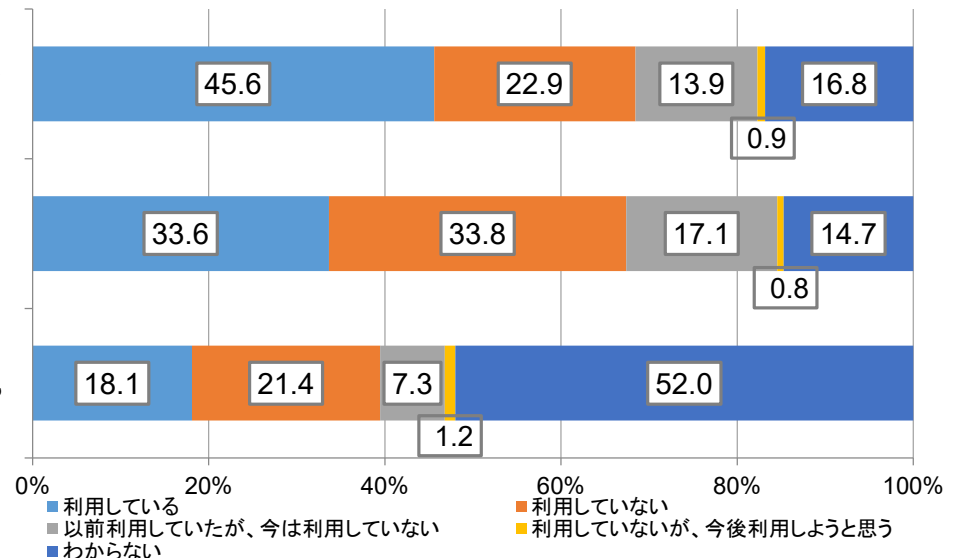
【図1】 フィルタリングに対するイメージ

（スマートフォン保有者ベース。フィルタリングを全く知らないと回答した者を除く。n=6,495）



【図2】 フィルタリングに対するイメージごとにおけるフィルタリング利用状況

（スマートフォン保有者ベース。フィルタリングを全く知らないと回答した者を除く。）



（出典）青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校1年生）の結果を基に作成。

7-2 ペアレンタルコントロール機能に対するイメージと利用状況

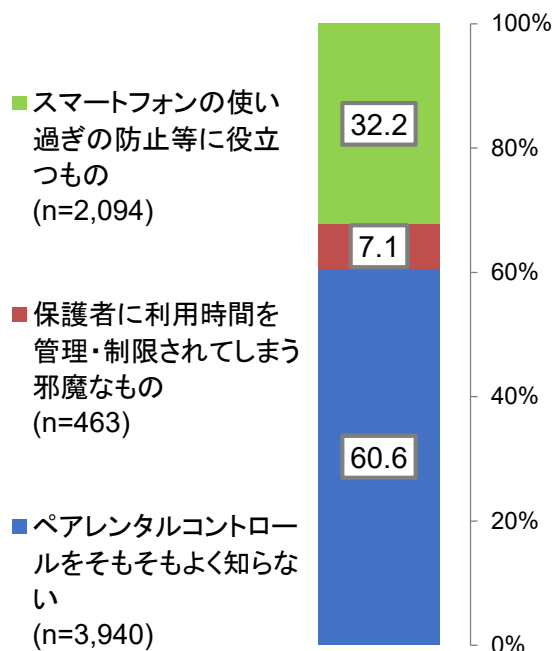
- ペアレンタルコントロール機能※に関して、高校生の60.6%が「そもそもよく知らない」と答えており、高校生の32.2%が「スマートフォンの使い過ぎの防止等に役立つもの」と肯定的に捉えている。一方、高校生の7.1%が「保護者に利用時間を管理・制限されてしまう邪魔なもの」と否定的に捉えている。

※ 子供がインターネットを安全に使うために、保護者が活用可能な利用時間制限、利用状況確認、コンテンツの閲覧制限等の機能。

▶ **〔考察〕** ペアレンタルコントロール機能については、高校生の60.6%が「そもそもよく知らない」と答えており、認知度を高めることが重要であると考えられる。

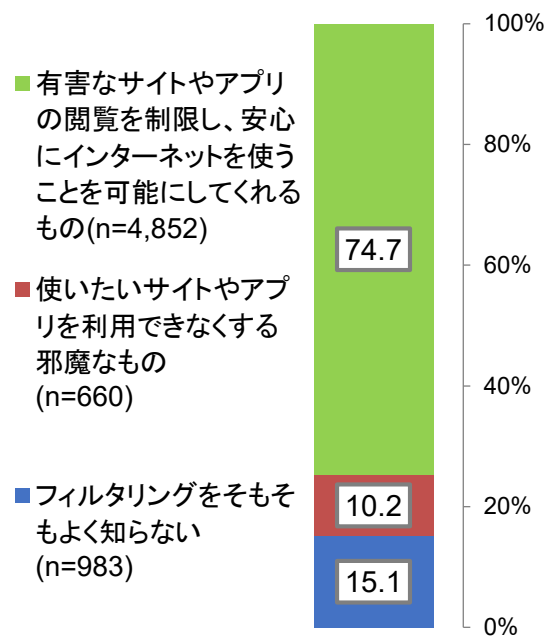
【図1】 ペアレンタルコントロール機能に対するイメージ

(スマートフォン保有者ベース。フィルタリングを全く知らないと回答した者を除く。n=6,497)



【再掲】 フィルタリングに対するイメージ

(スマートフォン保有者ベース。フィルタリングを全く知らないと回答した者を除く。n=6,495)



8 学校・家庭でのSNS等の利用のルールとフィルタリングの利用状況

- SNS等の利用について家庭や学校でのルールがある高校生の方が、ルールがない高校生に比べフィルタリング利用率が高い。

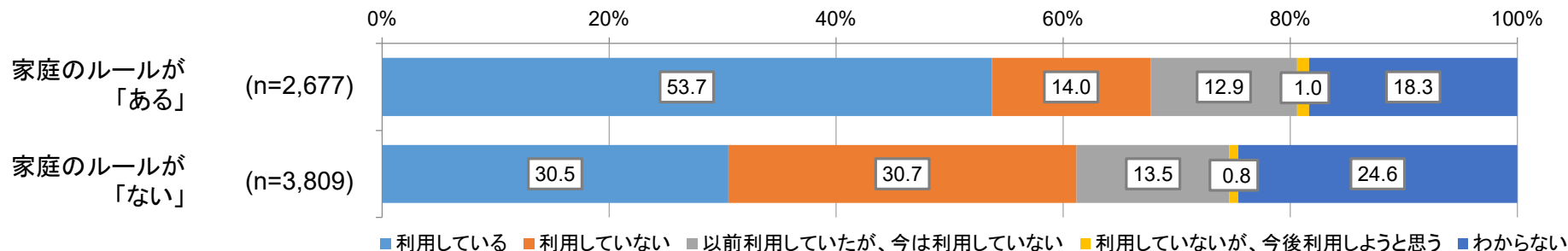
〔 家庭でのルールがある高校生のフィルタリング利用率：53.7%、ルールがない高校生のフィルタリング利用率：30.5% 〕
 〔 学校でのルールがある高校生のフィルタリング利用率：42.8%、ルールがない高校生のフィルタリング利用率：37.6% 〕

- 学校でのルールがある場合のフィルタリング利用率（42.8%）より、家庭でのルールがある場合のフィルタリング利用率（53.7%）の方が高いことから、学校でのルールの有無より家庭でのルールの有無の方が、よりフィルタリング利用に影響を与えていると考えられる。

▶ **〔考察〕** フィルタリングの利用促進に向けては、家庭でのインターネット利用に係るルールづくり等、安心な利用に係る保護者の意識向上（普及啓発）が重要であると考えられる。

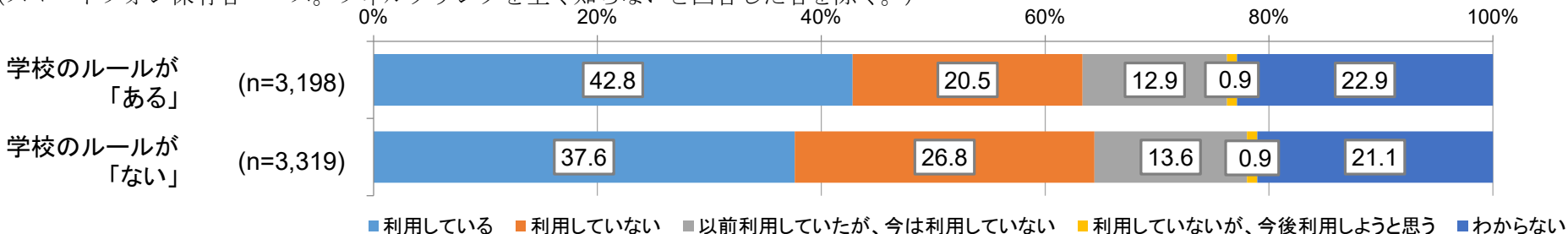
【図1】 家庭のインターネット利用ルールの有無とフィルタリングの利用状況

（スマートフォン保有者ベース。フィルタリングを全く知らないと回答した者を除く。）



【図2】 学校のインターネット利用ルールの有無とフィルタリングの利用状況

（スマートフォン保有者ベース。フィルタリングを全く知らないと回答した者を除く。）

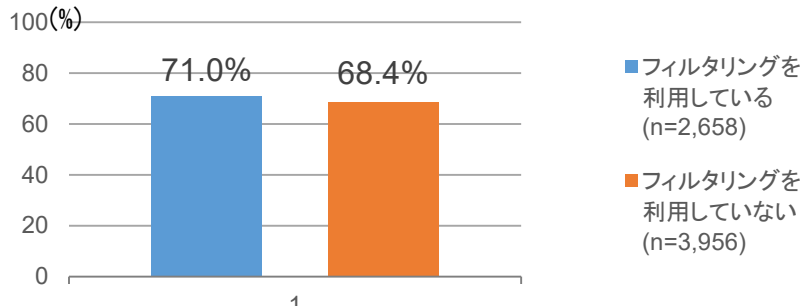


9 フィルタリング利用や家庭のルールとILASの結果（クロス集計）

- フィルタリングを利用している高校生（正答率：71.0%）の方が、フィルタリングを利用していない高校生（正答率：68.4%）に比べ正答率が高い。（図1）
- 家庭でのルールがある高校生（正答率：70.6%）の方が、ルールがない高校生（正答率：68.0%）に比べ正答率が高い。（図2）

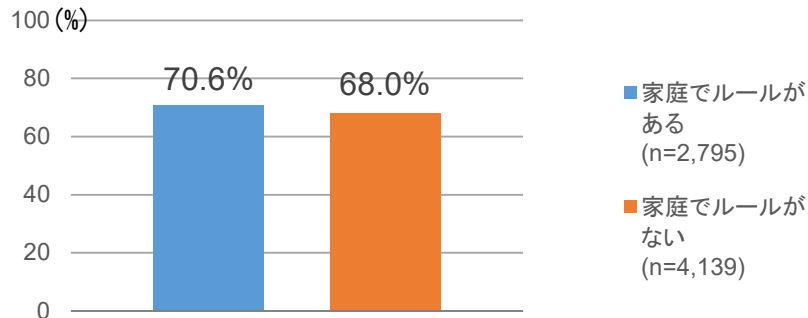
【図1】 フィルタリング利用の有無と正答率

（スマートフォン保有者ベース。フィルタリングを全く知らないとは回答した者を除く。）



【図2】 家庭のインターネット利用ルールの有無と正答率

（スマートフォン保有者ベース。）



（参考）家庭でのルールの有無及びフィルタリング利用の有無と正答率

（スマートフォン保有者ベース。フィルタリングを全く知らないとは回答した者を除く。）

		家庭でのルールの有無	
		○あり	×なし
フィルタリング利用の有無	○あり	72.4% n=1438	69.7% n=1162
	×なし	69.6% n=1239	68.2% n=2647

* 全体の正答率は68.7%
n=7,252

- 本調査結果からは、青少年のスマートフォン（インターネット）の安全・安心な利用に関しては、利用時間の管理、フィルタリングやペアレンタルコントロール機能に係る適切な情報の周知・普及、家庭でのインターネット利用に係るルールづくり等が重要な課題であると考えられます。

このため、これらに関して理解を深める上で参考となる普及啓発資料を、次のとおりご紹介します。

【インターネットの安心・安全な利用に係る普及啓発資料関連】

インターネットトラブル事例集（総務省）

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html

【青少年フィルタリングや利用時間管理等のペアレンタルコントロール機能等関連】

スマホの設定、うまく使いこなせていますか？～フィルタリングや時間管理等で上手にコントロール～（総務省）

https://www.soumu.go.jp/main_content/000680335.pdf

子どもとネットのトリセツ（安心ネットづくり促進協議会）

<https://www.kodomo-safety.org/>

青少年の携帯電話利用について（一般社団法人 電気通信事業者協会）

<https://www.tca.or.jp/mobile/approach.html>

MVNOスマートフォン安心安全ガイド（一般社団法人 テレコムサービス協会）

<https://www.telesa.or.jp/mvno-spaa-guide>

【インターネット利用に係る家庭内ルール作成関連】

SNS利用ガイドライン・家庭内ルール作成のすすめ（安心ネットづくり促進協議会）

<https://www.good-net.jp/safe-internet/guideline/>